

## 一般口演

## 1 摩訶止観の医学

杉田暉道

摩訶止観の医学の概要については、すでに本学会において報告したが、今回は、治療法の中にある十乗観法について検討を行ったのでその結果を報告する。

十乗観法とは、人間の心の煩悩や病患や業相や摩事や執着や高慢などの迷いを整理して十種類に分け（十境という）、それぞれに十種類の効果的な観心が行えるように実践方法を示したものである。智顛は病気の治療法として六種類の方法を示したが、これらの方法は絶対的なものではなく十乗観法こそが最高の治療法であると強調したのである。この観法には、観不思議境、起慈悲心、巧安止観、破法遍、識通塞、道品調適、対治助道、知安位、能安忍、無法愛の十法がある。

これらの概要を述べると、「観不思議境」とは、最上の完全な悟りの境地を観察することを指し、「起慈悲心」とは迷いの中に沈み、悟りをひらくことができない人々に對して自分と同じように真実に触れてもらいたいと慈悲の心を起すことを指し、「巧安止観」とは真理に気持を集中させて、その源を正しく見究め、あわせて他の人々をも仏道に目ざめさせて真実の道を求めるように導く努力をすることを指すのである。「破法遍」とは、巧安止観で行う実践方法で努力しても、真実を看取ることができない状態が起こることがある。それは迷いの心が残っているからである。したがってこれを破棄しなくてはいけない。これを指す。「識通塞」とは、修行の進展を妨げるものを、はつきりと見定めてそれを破り、悟りへの道を開く努力をすることを指す。「道品調適」とは、破法遍を徹底しても悟りを得られない者がいる。このような人は三十七道品の修行を正しく行えばよいということを指す。「対治助道」とは修行が悟りを開くことが出来ない人は、それだけ能力的に愚鈍な面を多く持っていると考えられる。したがって修行するのにむずかしい本格的な修

行法を行わせても無駄である。このような人には、比較的やさしい修行法を教えて、これによって、本格的な修行法の助けとなるような行法を習得させて悟りを得るよう指導することを指す。「知安位」とは、自らの現在の修行の進行状態が正しいか間違っているかを反省し、正しい修行からそれないように注意することを指す。「能安忍」とは今まで実践してきた正しい修行態度が、名利や煩惱に誘惑されないうで堅固に維持することを指す。「無法愛」とは、誰でもこれまでの九種類の修行を忠実に遵守・実行すれば悟りも開くことができるのであるが、それでもできないのは、かすかな執われの心が存在しているからである。したがってこれを克服すれば完全な悟りが得られることを指す。

以上述べたように十乗観法は正しく観心修行を行うために、微にいり細にいり注意すべきことを記していることがわかる。それでは何故智顛はこのような観心のきびしい指導書を作ったのであろうか。梅原猛は、「智顛は戦乱の中で生き、つぶさにこの世の地獄の相をみた。人間の悪と苦を徹底的に見つめた深い地獄の観察者であつ

た。かくして彼は静かに心を観ずることにより、この心の不安をとりのぞけると確信したのである。」と述べている。演者はこのようなきびしい心の反省の持ち主であったからこそ、十乗観法の修行法を考案できたのではないかと推察したい。さらに「病患を観ぜよ」という項目において、病気をよい機会と考えて、それを正しく観察し心の反省を行い悟りを得ることができる、と述べている。これは、「病即菩提心」という病気の価値転換を示す特異的な考え方である。智顛はまたこのような思想の持ち主であったがために十乗観法の修行法が考案できたと推察したい。

(神奈川県予防医学協会)